

と 緑龍文化

第 39号

令和8年3月31日発行

発行：龍ヶ崎市文化協会 / 編集：龍ヶ崎市文化協会広報担当

事務局：龍ヶ崎市教育委員会 文化・生涯学習課内 TEL 64-1111 (内線221)

龍ヶ崎市文化協会は、市民の文化芸術活動の振興に寄与し、分野を超えて会員相互の交流を深め、龍ヶ崎市の文化の発展高揚を図ることを目的とする団体です。



加盟団体一覧 (令和8年3月現在)

No.	部会名	加盟団体名	No.	部会名	加盟団体名
1	器楽	琴ききょう	17	茶道	茶道部
2	日本舞踊	舞踊部	18	華道	華道部
3	バレエ	桜井クラシックバレエ教室	19	書道	書道部
4	ダンス	Nu ダンスクラブ	20	篆刻	龍ヶ崎篆刻の会
5	民謡	龍ヶ崎相撲甚句会	21	篆刻	松葉篆刻の会
6	民謡	民謡美武会	22	短歌	龍ヶ崎短歌会
7	吟詠	吟詠部	23	俳句	龍ヶ崎俳句倶楽部
8	演劇	竜ヶ崎子どもミュージカル	24	俳句	ほほえみ俳句会
9	絵画	絵画部	25	川柳	龍ヶ崎市川柳連盟
10	絵画	龍水会	26	盆栽	龍ヶ崎盆栽会
11	絵画	アートサークル馴染	27	園芸	らん友会龍ヶ崎
12	絵画	龍宮墨水会	28	歴史	龍ヶ崎歴史ロマンの会
13	写真	龍ヶ崎写真クラブ	29	ダンス	済生会なでこフラダンサーズ
14	写真	全日本写真連盟 ひたち野支部	30	ダンス	シャイニーダンスアカデミー
15	陶芸	陶芸クラブどんぐり	31	器楽	津軽三味線喜幸会龍ヶ崎支部
16	陶芸	長山陶芸倶楽部			網掛けは新規加盟団体



表彰者一覧 (推薦受付順)

- 松島 章 (民謡美武会)
- 丹羽さつき (華道部)
- 鈴木 清美 (アートサークル馴染)
- 伊澤とよ子 (吟詠部)
- 関口美智代 (絵画部)
- 松田みち子 (絵画部)
- 川上 誠 (陶芸クラブどんぐり)
- 高橋 裕次 (吟詠部) ※敬称略



丹羽さつきさん



松島 章さん



関口美智代さん



伊澤とよ子さん



鈴木清美さん



高橋裕次さん



川上 誠さん



松田みち子さん

令和七年十二月十日（水）

栃木市立美術館視察研修

会長 松田 高 義

令和七年度の視察研修はNHKのおはよう日本の放映で喜多川歌麿と大田南畝ゆかりの地である栃木県栃木市の紹介で栃木市立美術館において「喜多川歌麿と栃木の狂歌」展が開催されていることが伝えられ、おりしもNHKの大河ドラマ「べらぼう」の放送もあり視察先に決定しま

した。

当日は天候も良く会員三十名と事務局二名で出発し、十一時頃美術館に到着し、当館の学芸員の方より作品の説明がありました。展示作品は第一章喜多川歌麿の画業・第二章歌麿の周辺の人・第三章狂歌と版本、浮世絵・第四章善野塚

と雪月花総数二百五十五点。そのうち当日は百八十一点が展示されており、喜多川歌麿の「美人大首絵」や稀代の浮世絵師の作品、狂歌摺物などがところ狭しと展示され壮観の一語でありました。

なかでも喜多川歌麿作「品川の月」（原本リーマ美術館蔵）、「吉原の花」（原本ワズワース・アセーニアム美術館蔵）、「深川の雪」（栃木市蔵）の作品は屏風絵ほどの大きさの原本・紙本着色の高精細複製画であり、感銘を受けました。浮世絵は販元（販売する店）・絵師・

彫師・摺師の共同作業により完成します。版木製法により大量生産が可能になり、今のお金にすると数百円程度で庶民に浸透しました。同時に販元の企画により狂歌本などが流布し、通と尊び軽快で洒落な江戸文化が確立しました。階級にとられず、世の中を風刺する庶民の伸び伸びとした姿が描写されています。

美術館視察後には、歴史的な建造物が残り「蔵の街」として知られる街並みや舟による交易が盛んであった巴波川（うずまがわ）を散策するなど、有意義な研修となりました。



学芸員の説明を受ける



浮世絵を鑑賞



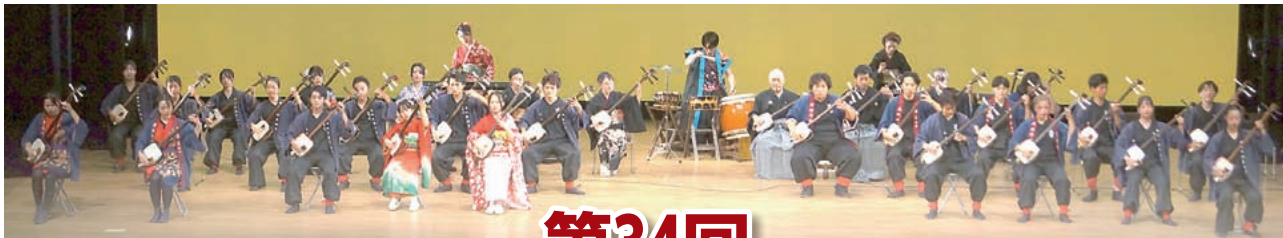
喜多川歌麿の大作



栃木市の街並み



巴波川



第34回

龍ヶ崎市民文化芸術フェスティバル

会期：令和7年10月24日～11月23日

主催：公益財団法人龍ヶ崎市まちづくり・文化財団



市民文化芸術フェスティバルが、大昭ホール龍ヶ崎（龍ヶ崎文化会館）を主会場として開催され、展示、舞台発表、体験催事など二十の催事が実施されました。

龍ヶ崎市の秋の恒例行事として定着している市民が主役の文化と芸術のイベントは、コロナ禍を経て通常の生活に戻る中、文化協会加盟の各団体が活発に活動し、文化協会の役員も積極的に参加した結果、昨年を大きく上回る一万九千人以上の皆さまに参加



市民文化芸術フェスティバル

運営委員会委員長

石渡 静夫

来場いただくことができました。

大ホールにおいては会員の皆さまが生き生きとした表情で楽しんで発表する姿に感動し、小ホール等においては展示については、個性豊かな味わいのある作品の数々に心が和らぎました。

日頃から文化・芸術活動に取り組みられている皆さまの成果をじっくりと観覧することができて感動させていただきました。

一か月という長い開催期間でしたが、会員の皆さまのご協力に感謝申し上げます。





展示の部

10/24 (金) ~26 (日)

盆栽展

10/29 (水) ~11/2 (日)

書道・俳句・短歌・川柳展

10/30 (木) ~11/3 (月)

写真・篆刻展

11/ 5 (水) ~ 9 (日)

絵画展

11/ 8 (土) ~ 9 (日)

いけばな展

11/12 (水) ~16 (日)

陶芸展・団体展示

11/14 (金) ~16 (日)

洋らん展

発表の部

10/26 (日)

歌謡舞踊と小曲のつどい

11/ 1 (土)

吟詠・津軽三味線・民謡・
相撲甚句のつどい

11/ 9 (日)

バレエ・ダンスフェス

体験催事

11/ 9 (日)

いけばな体験教室

11/15 (土)

テーブルフラワー教室

11/15 (土)

茶会

事務局からのお知らせ

【加盟団体交付金】

交付金の充填事業の領収書は、市長名で発行する交付決定通知書の交付日以降の領収書が必要となります。事業が決定したら早めの申請をお願いいたします。

【市バス使用の留意事項】

予約は、利用日の三か月前からになります。

運行時間は、市役所開庁日の八時半から十七時までとなります。

会員以外の方は、乗車できませんのでご注意ください。

【会議欠席時の資料】

本部会・理事会を欠席した場合は、後日、事務局まで受け取りにきてください。

令和八年度 会議等の予定

四月七日(火) 十時から

監査…市役所附属棟一階

四月九日(木) 十時から

本部会…市役所附属棟一階

四月十六日(木) 十時から

理事会…市役所附属棟一階

四月二十三日(木) 十時から

総会…市役所附属棟一階

加盟団体の活動報告

龍ヶ崎写真クラブ

当クラブは平成八年十二月に結成し、現在は会員九名で風景・スナップ他の作品作りや外部講師による作品の添削指導を受けながら、写真技術の向上を目指して「楽しく撮る・好きで撮る・自由に撮る」をモットーに活動を行っています。

作品は、年一回開催のクラブ写真展、文化の祭典、市民文化芸術フェスティバル等に展示しています。主な活動内容は次のとおりです。
☆月例会
第三日曜日午後・市民活動センターにて、
・各自作品の研究・合評
・課題作品の合評と優秀作品の選出（年四回）
☆撮影会（宿泊・日帰り）
☆写真展（年一回開催）
☆その他、文化協会等の諸行事に展示参加
写真に興味のある方、これから始めたい方、一緒に写真を撮りませんか。



龍宮墨水会

遠藤風幽先生の教室に毎月二回お稽古に伺い、動植物や風景を主に描いております。四月の初めに年度計画を話し合い、スケッチ会や美術館へ展覧会を見学に行くこともあります。

また日本選抜美術家協会主催、東京都美術館での毎年六月の大賞展への出品は大変刺激になり、創作意欲が湧いてきます。

水墨画の魅力は、墨の黒色の濃淡だけで描き、奥行きや動物の表情、植物の輝きを描くことにあります。見ている方から、絵から出てきそうな

感じがする、という声を聴くと嬉しく思います。毎年十一月には市民文化芸術フェスティバルが開催され、作品を出品しております。

遠藤先生は、令和六年度に郷土作家展を開きました。また令和八年二月十日から十五日まで、牛久市三越ギャラリーで展示会を開催したところで

F10号、約二十点を掲載しました。

水墨画に興味がある方、会員を募集しています。



龍ヶ崎篆刻の会

龍ヶ崎篆刻の会は、毎月第一、第三木曜日に市民活動センターで定例会を開催し、作品づくり、テーマ発表、意見交換などを行っています。

春の文化の祭典と秋の市民文化芸術フェスティバルでの展示や市民活動センターの常設ブースに、会員の作品を発表しています。

篆刻は、書道の一分野で、書や水墨画の「落款」がよく知られています。石に姓名や雅号を彫って、作品に押すと一層引き立ちます。また四字熟語、漢詩や般若心経などの長文を刻むこともできます。彫っているときに刻刀が滑って失敗することがありますが、それが味わいとなり個性となります。

現在の会員は六名。篆刻のみならず刻字、写刻、獅子頭・能面づくりなど色々な分野に興味があるメンバーの集まりです。

全会員が師匠となり弟子となり、意見と知恵を出し合い切磋琢磨して技量の向上を図っています。



舞踊部

舞踊部は本年結成四十周年の佳節を迎え、二〇二五年の文化の祭典において記念の発表会を開催しました。

開催にあたりオープニングに特別出演として龍ヶ崎市の伝統文化、龍ヶ崎小唄保存会による龍ヶ崎小唄、龍ヶ崎錦を披露していただき、さらに舞踊部各流派、舞島流宗家、梅若流宗家、旭水流宗家、萩原流宗家、藤里流宗家による特別出演で舞台を盛り上げていただきました。

部員一同もこの日のために懸命に稽古を重ね技術だけでなく表現者としての心も大き

く成長させていただきました。今後はこの四十年で培った基礎を大切にしながらも、時代の変化に対応し、更に新しい舞踊の世界を切り開き日本の大切な文化を未来に継承してまいります。

舞踊部では各流派で初心者をお歓迎していますので、まずはお気軽にご連絡ください。



龍ヶ崎盆栽会

盆栽会は、今年で五十周年を迎えます。多くの方が築いてこられた会ですが、現在の会員数は男性六名、女性八名の十四名です。

主な活動内容は、春の文化の祭典、秋の市民文化芸術フェ

スティバルへの展示の部への参加です。それと年一回のワークショップですが、「初めての盆栽」と称して十五名程度の参加者の方と実際に植付から管理方法の説明まで行っています。

会を盆栽会とは銘打っていますが、女性六名は、創作山野草と言って、樹木と草を寄せ植で作る盆栽を楽しんでいます。また、男性及び女性の二名は花ものや実ものの盆栽、雑木、松柏盆栽とそれぞれ楽しんでいきます。

現在は、従来の伝統的な形式にとられず、自由で洒落な「ぼんさい」を親しんでいます。



絵画部

絵画部は昭和三十七年三月に創設、六十有余年の歴史あるクラブです。現在会員は女性十二名、男性四名の十六名で、毎月一回ふるさとふれあい公園アトリエで活動しています。

油彩、水彩、色鉛筆など画材は自由で、和気藹々とした雰囲気、研修中には会員同士でのアドバイスなどを参考に、より良い作品の制作に励んでいます。描いた作品は、五月の文化の祭典、十一月の市民文化芸術フェスティバルに出展しています。

毎年一月にはサブラ二階多目的ホールでの「新春展」を一年間の集大成として開催し、多勢の方々に鑑賞していただいています。

また、龍ヶ崎済生会病院のロビーや各階の待合室にも年間を通して会員の作品を展示しています。

絵に興味のある方は、お気軽に研修日にお出でください。見学されるだけでも大歓迎です。



喜幸会

喜幸会は、津軽三味線井坂流家元・井坂斗絲幸氏に師事する民謡と津軽三味線の会です。幼児から九十歳代まで幅広い年代の会員が在籍し、津軽三味線全国大会では三年連続で団体戦二部門優勝、殿堂入りを果たした実績ある団体です。

市民文化芸術フェスティバルには毎年出演し、年に一度は百名ほどが集う発表会も開催しています。県内外での公演活動も活発で、今年は広島や山梨など各地で公演を成功させました。百名以上の迫力ある大合奏や独奏もさること

ながら、中でも三連覇の際に演奏した「風の詩」は、多くの方に親しまれる魅力的な演目のひとつです。

ぜひ一度会場へ足をお運びいただき、胸の奥深くまで響く生の音色をお聴きいただけましたら幸いです。

なお、龍ヶ崎支部では月二回お稽古を行っていて、体験参加も可能です。舞台でも活躍するプロの指導のもと、楽しく三味線に触れてみませんか。



桜井クラシックバレエ教室

当団体は、一九八五年に出し山町スタジオで発足し、龍ヶ崎文化会館大ホールにて第一回発表会を開催し、四十余年になります。

文化の祭典、市民文化芸術フェスティバルに参加、またゲストダンサーと共演の古典作品、創作バレエ等の発表会は十六回開催しました。

(公社) 日本バレエ協会、県協会の行事、国内外のコンクールにも参加し、卒業生はバレエ留学、国内外のバレエ団員、バレエ教師、演劇界で活躍しています。昨年五月、オーストラリア・バレエ団公演で主役を踊り、上野文化会館大ホールで、日本初舞台を迎えたOBの応援で教室一同、卒業生、父兄が再会し、祝福し、盛り上がりました。

美しい音楽と共にバレエの技法、ストレッチを行い、情操と教養を高め、健康でリズムのある身体作りを目標に週一回から四回レッスンをし、大人の方たちも非日常の夢の世界で自由に自己表現し、バレエを楽しんでいます。見学会随時受付中です。



書道部

書道部は、市内にある各教室の集まりで結成され、主に年二回行われる、春の文化の祭典と秋の市民文化芸術フェスティバルへの参加を目的として活動しています。日頃の練習課題から創作作品までを展示してきました。

特に秋の市民文化芸術フェスティバルでは、各教室に学ぶ一般会員はもとより、各教室で学ぶジュニアから高校生まで、そして一昨年からは、福祉施設「あざみ」書道グループも加わり、力作ぞろいの会場は賑やかで明るい展示会場となりました。

今後も多くのお出品者と見学

者が増えて下さることを祈りつつ、十分な働きかけを心がけてまいります。



川柳連盟(龍ヶ崎雪柳川柳会)

川柳は人間そのものを描く文芸です。人間を題材としているので楽しく面白く奥深いものです。物事を多方面から見て自分の言葉で表現するので頭の体操にもなります。もちろん自分自身も格好の題材です。自分を褒めたり、蹴落とししたり、励ましたり。川柳の魅力は尽きません。

私たちは毎月第四火曜日、午前十時から中央図書館で句会を行っています。互選、二人選、自由吟、五分吟でお互いが切磋琢磨しながら楽しい

句会にしています。

今年度は水戸市芸術祭の大会、日立市の大会に参加し、上達に努めるとともに県内の川柳会と交流を図っています。川柳に興味をお持ちの方、入会をお待ちしております。



民謡美武会

全員が後期高齢者、民謡の愛好会「民謡美武会」です。九十六歳を筆頭に男性十名、女性十三名が民謡を楽しんでいます。今年度は市・コミュニティセンターの行事を始め、介護施設慰問や会独自の行事等十三回の活動と四十六回のお稽古をしました。

何人かの大病を患った会員が、回復を待ちかねたかの如

く早々に現場へ復帰し、「元気の素」となる声を出すことの大切さを実践してくださっています。そのことは会員の皆もよく知っていて、お互いに励まし合っています。

ステージに立った時のささやかな緊張感や慰問先での利用者との交わす笑顔は、会員ならではの貴重な財産になります。

民謡は、昔の「物売り」がルートと言う研究者がいます。脚絆を付け天秤棒を担いだ「棒手振り」が良い声で「金魚お〜い金魚お〜」…確かに雰囲気は似ているかも。私たち民謡美武会の会員が物売りの声で「健康お〜してますか〜」…良い声をお届けいたします。

